

彩の歳時記

平成二十九年 九月

秋の菊にほふ限りはかざしてむ 花よりさきと知らぬわが身を

紀貫之【872?～945】

「この秋の菊が、枯れるまで頭に飾ってみようか、花より先にこの世から消えるかもしれない我が身であるから」と心に刻むのは哀しいことですが、一瞬一瞬を大切に生きなければという思いも生まれてきます。「春の桜」に対し「秋は菊」が詠われる事が多いのは、**菊花の露**によつて長寿を得るといふ中国の故事に基づいています。

露ながら折りてかささむ 菊の花 老いせぬ秋の ひさしかるへく

紀友則【845～907】

「露があるままでも、折つてこの菊の花を頭に挿して飾ろう、老いることない秋がずっと続くように」



九月の暦

長月ながつき 夜がだんだんと長くなる「夜長月(よながつき)」の略

一日 二百十日【雑節】 立春から210日目。嵐の襲来する時期。夏目漱石の作品名にもある。

一日 関東大震災記念日 1923(大正12)年午前11時28分マグニチュード7.9の地震発生、

「死者・行方不明10万の千余」といふ甚大な被害を残した。

防災の日 関東大震災を教訓とし、防災意識を高めるために1960年に制定。



七日

白露はくろ【二十四節気】 陰気ようやく重りて露こりりて白色となれば也【暦便覧】

白露に風の吹きしく秋の野は つらぬき留めぬ玉ぞ散りける 文屋朝康【百人一首】

九日

重陽の節句(菊の節句) 奈良・平安時代の宮中行事。五節句の一つ。

奇数は「陽」の数字最大の「九」が「重」なることから目出度い日とされた。



明治時代まで行われ、現在は皇室園遊会(観菊御宴)として行われている。菊は、後鳥羽上皇が「印」として愛用品に「十六八重表菊」を用いるなど、意匠としても用いられ、鎌倉時代、時絵や衣装の文様として流行、以降、天皇の下賜の品に付けられ、公家や武家の間では、家紋として使用された。『万葉集』には、菊の歌は無く、当時は菊がなかったことを暗示。

十八日 敬老の日(国民の祝日) 第三月曜。二十八年度は総人口に占める割合は27.3%で過去最高

十九日

子規忌

俳句、短歌、新体詩、小説、評論、随筆などに亘り創作活動を行い近代



文学に多大な影響を及ぼした明治を代表する文学者・正岡子規【1867～1902】の忌日。俳誌『ホトトギス』を創刊。高浜虚子・河東碧梧桐らと近代俳句の基礎を築いた。漱石と親交が深く、浅草長命寺で同居していたことも。台東区根岸に弟子や友人等が集い、晩年を過ごした「子規庵」が現存。上野公園内に子規記念野球場。ベースボールを野球と命名したのは幼名の(升・のぼる)ノボールに因る。『歌よみに与うる書』『病床六尺』『仰臥曼荼羅』

二十三日 秋分【二十四節気】 昼と夜の長さがほぼ等しくなる。【秋彼岸(21日～26日)の中日】

秋分の日 国民の祝日 先祖をうやまい、なくなった人をしのぶ。

九月の歌

地上の星 2000年



NHKの『プロジェクトX』の主題歌で番組のために書き下ろされた歌。

中島みゆき【1952～】とユーミン(松任谷由美)【1954～】は、昭和を代表するシンガーソングライターの双璧。今を生きる多くの女性の心情を掘り上げ、巧みな言葉で表現し、大きな支持を得、今も歌い継がれている。中島の作品は独特な世界観、壮大さがあり、歌詞が考察される事が多い。

例えば、「人は空ばかり見てる」は、有名な人ばかりを見ている大衆を指し、テレビなど大型メディアや情報(ネット)を盲目的に信じることを揶揄しているが、星は空ばかりではなく地上にもあり、みんな何らかの分野のスターであり、簡単に陽の目を見なくても、誰もが「星」プロフェッショナルだと歌っている



風の中のスバル 砂の中の銀河
みんな何処へ行った
見送られることもなく
草原のベガサス街角のヴィーナス
みんな何処へ行った
見守られることもなく
地上にある星を誰も覚えていない
人は空ばかり見てる
つばめよ 高い空から教えてよ
地上の星を
つばめよ 地上の星は
今どこにあるのだろう

後略